

# 東北3県を行政視察

視察日 7月4日～6日

## 視察地と内容

- 宮城県南三陸町 「防災と被災地の現状」
- 岩手県滝沢村 「議会改革」
- 秋田県大仙市 「教育」

大山町議会では、津波により甚大な被害を受けた宮城県南三陸町などの視察を行いました。

## 「早期の復興を願う」

### 宮城県南三陸町

東日本大震災で大きな被害を受けた南三陸町では、大津波によつて建物の7割が流失・全半壊し、死者・行方不明者は800人を超えた。

現在は、復興計画の「防災と減災」の考え方でまちづくりが進められている。

これまでは、「逃げる」を基本に、防潮堤などを整備する「防ぐ」と



被災した南三陸町の中心市街地



多くの役場職員が犠牲となった防災対策庁舎

いうことを対策としていた。今後は「防ぐ」のほか、住まいの高台移転や低地の土地利用規制などによる「安全な場所に住む」考えを加えた対策がとられる。

震災の爪痕がまだ各所に残り、惨状は想像を絶するものであった。被災地復興は、東北の課題ではなく国民すべてが共有すべき課題であることを認識した。

復興への道のりは長く険しい。

## 「議会改革の先進事例」

### 岩手県滝沢村

滝沢村は、盛岡市のベットタウンで人口5万4000人。日本

悲劇をくり返さないため、震災の教訓を後世に伝えなければならぬ。歩みはじめられた被災地のみなさんに復興のメールをお送りするとともに、あらためて地域における「人と人のつながり」の大切さを感じ取った。



滝沢村での研修